SMBG の結果について患者から相談を受けて困ったケース

◎村越 大輝[1)]
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院[1)]

糖尿病患者の血糖管理には日々の血糖測定が重要であり、SMBG は医療機関でしか測定することのできなかった血糖値を患者自身が簡易的に測定できる機器として、血糖コントロールの改善や低血糖時の対処に有用である。SMBG はインスリン製剤、GLP-1 受容体作動薬の自己注射を週 1 回以上実施していれば保険適用となり広く用いられているため、患者と関わる中で質問や困っていることを耳にする機会は少なくない。患者は SMBG の測定結果により、服薬量の調整や対処行動をする場合があるため、質問や疑問の多くは測定結果に関する内容がほとんどである。また、近年では SMBG と CGM を併用している患者も多く、血糖値とセンサーグルコース値の解離により困惑しているケースが増えている。患者が抱える疑問に対して正しく答えるためには、指導を担当する臨床検査技師が SMBG、CGM ともに正しく理解をする必要があると考える。本セッションでは SMBG、CGM に関して正しく理解をして、患者の質問や疑問を困らずに解決できるようになることを目的に必要な知識、情報を共有したい。

採血、SMBG、CGM の測定値が乖離する原因として、測定している検体が“血漿”と“全血”と“間質液”であり、検体種別が違うから乖離するのはある程度は仕方がないということが真っ先に思い浮かぶ方が多いと思う。しかし、本当にそれだけが原因なのだろうか。他に乖離する原因として考えることはないか、改めて考えてみて欲しい。SMBG の測定値を正しい結果として、CGM の精度を表す MARD という指標がある。これは SMBG の測定値から CGM の測定値が何%の差があるかを見ることができる指標であるが、前提として SMBG の測定値が正しいと仮定した場合である。SMBG は手洗い・乾燥不足、採血部位・方法、ヘマトクリット、溶血、試験紙の劣化などの要因で簡単に測定値が変化する。全ての患者が正しい方法で測定ができている保証はなく、指導時や問題が発生した時には必ず測定手技を確認する必要がある。「SMBG と CGM で 10%くらいは検体種別の影響で差が出るから仕方がない」と安易に考えるのではなく、しっかりと測定手技の確認を行ったうえで原因を追究し、対策を講じることが重要である。

近年、CGM が普及しているが、一方で日本糖尿病学会が出している「リアルタイム CGM 適正使用指針」では「必要に応じて SMBG を行って血糖値を確認しなければならない」とされている。その血糖値は正しくあるべきだということは言うまでもなく、SMBG で得られる血糖値は立派な検査データであると考えてほしい。指導に携わる臨床検査技師は、他の検査同様に患者が測定する SMBG の測定値が正しい検査結果であることに責任を持てるようになるべきである。そのためには正しく理解をしたうえで、正確に患者に伝えることが必要であり、多くの患者が正しく測定できるように我々臨床検査技師にできることを考えるきっかけにしていただきたい。

連絡先：054-247-6111（内線：8174）